

Vol.192



かけはし

理念

すべては患者様と
地域社会のために

病院ホームページは

<http://www.mhi.co.jp/kobe/hospital/>

発行責任者 病院長 松本 健

異常腹水に対するKM-CART

～ 改良型・腹水濾過濃縮再静注法 ～

・異常腹水とは

腹腔内には常に20～50mlの腹水が一定量で存在しており、本来は腸管運動の潤滑剤として機能しています。その腹水が異常な量にまで増えると、内臓が圧迫され、腹部膨満感や食欲不振、また下肢のむくみや呼吸困難などさまざまな症状を引き起こします。原因は、血管内の水分が腹腔内に溢れ出す非炎症性腹水（肝硬変、ネフローゼ症候群など）と腹腔内の炎症により水分貯留を生じる炎症性腹水（胃がん、大腸がん、卵巣がんなど）に大別されます。

・KM-CART(改良型・腹水濾過濃縮再静注法)による腹水治療

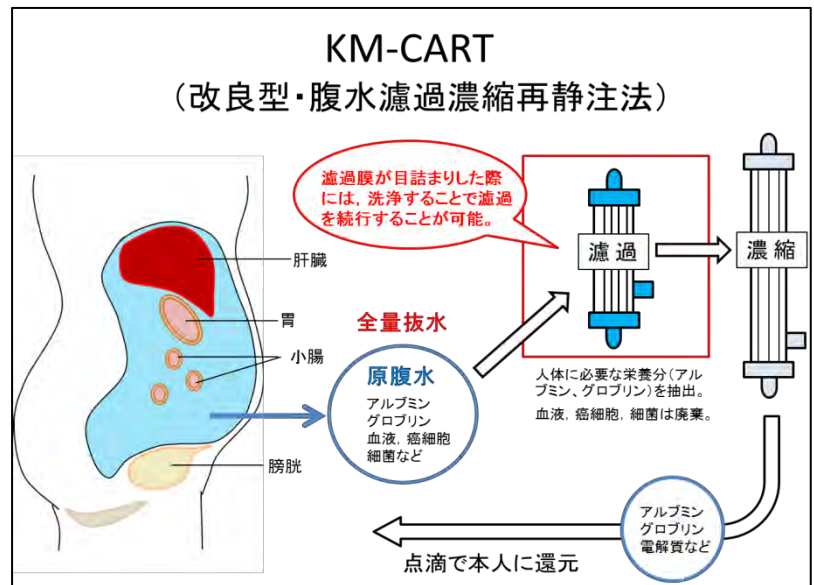
当院外科では、異常腹水を治療する方法として、2013年に**KM-CART (改良型・腹水濾過濃縮再静注法)**を導入致しました。CART (Cell-free and concentrated Ascites Reinfusion Therapy) とは、腹水を穿刺して抜き、抜いた腹水を濾過することで必要な栄養分（アルブミンやグロブリンなどのタンパク）を抽出し、濃縮したのち点滴で患者様に戻す治療法です。この方法を用いると、腹水を抜くことで栄養分が失われ、体力が低下する事態を極力回避することができます。ただ、従来のCARTを癌性腹水に用いると、腹水中の癌細胞によって濾過膜が目詰まりが生じるため、濾過・濃縮処理のできる腹水量が限ら



消化器外科部長
KM-CART責任者
高橋 毅

れていることや還元時に高熱を認めることが問題とされてきました。一方、私たちが行っているKM-CARTは、濾過膜の洗浄機能が設けられており、濾過膜が目詰まりした癌細胞を洗い流すことが可能です。それにより血液や癌細胞を取り除きつつ、多量の癌性腹水を濾過・濃縮できるようになりました。KMはこのシステムの開発者である松崎圭祐先生（現要町病院・腹水治療センター長）のイニシャルです。

異常腹水に対する治療として、KM-CARTを受けられる医療機関は関西のみならず、日本全国でも未だ少なく、薬物療法のみが従来のCARTによる治療が行われているのが現状です。当科では、異常腹水でお困りの患者様が少しでも穏やかに過ごせるよう、症状緩和に尽力しております。



お問い合わせ先

地域医療連携室：078-652-8271（外線）
8-63-22678（内線）

医師退職のお知らせ

松田 耕作医師（消化器内科部長）は
2019年6月30日付で退職いたしました。

当院が発信するX線撮影の高い技術！！



去る2018年9月21日～23日に山口県の海峡メッセ下関と下関市生涯学習プラザにて、第34回 日本診療放射線技師会 学術大会が開催され、スキルアップセミナーと分科会企画の2つの講演をさせていただきました。分科会企画では、『撮影技術を研ぎ澄ます・上肢X線撮影法』を講演させて頂き定員600人の会場で約700人が来場され、立ち見状態となり、今大会で最高の集客数となるイベントになりました。

X線撮影は、CT検査ほどの詳細な情報提供とはなりませんが、X線を用いる検査の中で最も安価で、最も放射線被ばくが少ないというメリットを持った検査です。しかしその反面、撮影の技術力次第では骨折や骨の年齢変化を正しく描出する事が出来ない可能性を持っております。そのため、現在でも全国の診療放射線技師が最新の撮影技術を研究し学ぶ事によって、日々の業務に活かしております。

画像技術科
主任 高井 夏樹
(診療放射線技師)

その時の講演内容は、痛みのある患者様に無理をさせず優しく、素早く、精度の高い撮影技術と当院で開発した補助具の数々を解説し、大きな反響を得ました。

私がこのような取り組みを行っているのは、当院の理念や基本指針が背景となっております。当院は、「**すべては患者様と地域社会のために**」の理念を掲げ、その基本指針として、第一項に「生命の大切さと人間愛を常に忘れず、**自己研鑽に励み**、患者様に喜ばれ、信頼される**安全で質の高い医療サービスを提供する**」また、第四項に「**個々人が医療人として常に自覚・能力を高め**、相互に協調し常に活気溢れる職場をつくる」とあり、安全で質の高い医療サービスを提供するよう心掛けております。

私達は現状に満足せず、日々努力を続け、これからも全国に高い医療技術を発信できるよう知識を深め、地域の患者様により優しく、精度の高い撮影技術を提供して参りたいと思います。



講演中の様子



講演会場の様子



画像技術科
橋本 明日香



趣味は野球観戦、阪神タイガースが大好きです。まだまだ未熟者ですが、日々勉強し一生懸命頑張りますので宜しくお願い致します。

お知らせ

7月は第2 (13日)・第4 (27日) 土曜日の他に、**16日 (火)・22日 (月)** が半日開院日となります。予め、ご了承願います。



7月 ■ : 休日 ■ : 半日開院日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

～～ コミュニケーションで心も風通し良く ～～

早いもので7月に入りました。今年は暦を問わず、気温の乱高下がありますが、みなさん調子はいかがでしょう。会社では5月からクールビズを実施しています。夏は風通しの良い服装で、少しでも毎日の暑さと上手く付き合っていきたいものです。毎日のコミュニケーションにおいても、風通しを良くすることで、思い違いや誤解が解けて、随分ストレスが緩和されます。今回は日頃のコミュニケーションについて、以下のようなちょっとした意識・行動の提案をしたいと思います。



コミュニケーションは主体的に

日頃のコミュニケーショントラブルの中で、よく耳にするフレーズに「私はそんなこと聞いてない!」、「どうして言ってくれなかったの? 言ってくればよかったのに!」といったものがあります。これらはどれも受け身的なコミュニケーションが前提となっています。一人ひとりが自分から尋ねる姿勢、伝える姿勢を持てば、解決することも多くあるはずです。

人の話を最後まで聞こう

会議などで議論を交わすことは大切なことです。しかし、感情的になりすぎると、自分の意見を話すことだけに意識が向いてしまい、相手の意見を理解しようとする姿勢が欠けてしまいます。まずは相手が話し終わるまで、話を最後まで聞きましょう。それから自分の意見を話しても遅くはありません。

積極的にポジティブなことも言葉にしよう

職場や家庭において、トラブルがあった時ほどついついネガティブなことを言葉にしてしまいがちではありませんか? それ自体悪いことだとは思いますが、同じくらい、出来ていることや良かったこと、感謝すること、相手をほめること、自分が感激したことなども、言葉にしてみると、それがセルフケアや人間関係の潤滑油になることも多くあります。自分のなかで、ポジティブ、ネガティブな言葉やコミュニケーションが1:1となるようバランスを心がけて発信してみましょう。

【メンタルセルフチェック】

- ①一日中ずっと憂うつでしたか?
- ②周囲の事に興味がなくなったり、楽しめていたことが楽しめなくなりましたか?
- ③睡眠に異常がありましたか?
(例:寝つきが悪い、夜中に目が覚めるなど)
- ④自分に価値がないと感じたり、または罪の意識を感じたりしましたか?
- ⑤集中したり、決断することが難しいと感じましたか?

一人ひとりのちょっとした意識で、コミュニケーションが取りやすい、風通しの良い環境をつくっていきましょう。また、日頃のメンタルヘルスチェックに、左の「メンタルセルフチェック」を活用しましょう。

5項目の中で3項目以上がいつも存在する場合は、うつ状態の可能性が考えられますので、早目に専門医への相談をお勧めします。

健康管理グループ

臨床心理士・公認心理師 矢野 知子

「第19回生活習慣病教室のご案内」

- ・テーマ 「狭心症と心筋梗塞について」 講師: 中川 貴文医師 (内科)
- ・日時 2019年7月3日 (水) 14:00~15:00
- ・会場 南館5階デイルーム
- ・申し込み方法

【外来患者様】

内科外来にて直接受付 又は 内科外来直通電話 (078-672-2619) 平日13:00~17:30

【入院患者様】

病棟看護師にお申し出ください。

お問い合わせ先: 内科外来受付 外線: 078-672-2619 内線: 8-63-22619